

第2回地域活性化に資する灯台活用に関する有識者懇談会

平成31年4月19日

【海上交通企画室長】 定刻となりましたので只今から第2回地域活性化に資する灯台活用に関する有識者懇談会を開催させていただきます。

委員の皆様等に置かれましては大変お忙しい所、お集まり頂きまして誠に有難うございます。本日事務局を務めさせて頂いております海上保安庁交通部企画課海上交通企画室の久田でございます。どうぞよろしくお願い致します。

大変失礼でございますが、携帯電話等お持ちの方はマナーモードで何卒宜しくお願いします。

それでは冒頭に当たりまして、高原交通部長よりご挨拶申し上げます。部長よろしくお願い致します。

【交通部長】 おはようございます。海上保安庁交通部長の高原でございます。委員の皆様におかれましては、ご多用のなかご出席をいただき、誠に有難うございます。

前回第1回懇談会では、地域による灯台の活用を広げていくために、「情報発信」や「地域連携」について検討が必要であるとのご意見をいただきました。今回の懇談会では、前回いただいたご意見を踏まえ、地域による灯台の活用を広げていくために必要な方策について、引き続き活発なご議論をいただきたく、何とぞよろしくお願い致します。

【海上交通企画室長】 有難うございました。新年度となりまして人事異動による委員の交代等もありましたので、改めて委員の皆様方をご紹介させて頂きたいと思っております。

初めに座長をご紹介致します。東京工業大学名誉教授の藤岡委員でございます。よろしくお願い致します。

【藤岡座長】 藤岡と申します。本日はよろしくお願い致します。

【海上交通企画室長】 ありがとうございます。以後名簿順にご紹介させていただきます。

株式会社サンミュージックプロダクション総務部業務課課長の大橋委員でございます。

【大橋委員】 大橋でございます。第一回は欠席で申し訳ございませんでした。本日はよろしくお願い致します。

【海上交通企画室長】 ありがとうございます。銚子市観光商工課課長笹本委員でございます。

【笹本委員】 笹本でございます。どうぞよろしくお願い致します。遅くなり失礼しました。

【海上交通企画室長】 ありがとうございます。続きまして志摩市観光商工課課長鈴木委員でございます。

【鈴木委員】 志摩市観光商工課の鈴木と申します。この4月に人事異動でこの部署に来させて頂きました。昨年はワールドサミット等で色々と会議の際はありがとうございます。是非皆さんと地域振興をやって行きたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。

【海上交通企画室長】 ありがとうございます。続きまして公益財団法人日本交通公社観光地域研究部寺崎委員でございます。

【寺崎委員】 おはようございます。よろしくお願い致します。

【海上交通企画室長】 ありがとうございます。続きまして灯台専門フリーペーパー「灯台どうだい？」編集長不動委員でございます。

【不動委員】 おはようございます。今日も灯台のために何か寄与できることがとても嬉しいです。よろしくお願い致します。

【海上交通企画室長】 ありがとうございます。本日の有識者懇談会におきましては地域で灯台を支えて頂いている団体の取り組みにつきまして犬吠埼ブラントン会 代表幹事の仲田様からご説明頂くことと予定しています。仲田様よろしくお願い致します。

【仲田代表幹事】 犬吠埼ブラントン会の仲田でございます。本日はこの会議に参加させて頂きまして大変有難うございます。よろしくお願い致します。

【海上交通企画室長】 ありがとうございます。なお海上保安庁の出席者につきましてはお手元の配席図にかえさせていただきます。よろしくお願ひ致します。

次にお手元に配布しております資料のご確認をお願ひ致します。なお配布資料につきましては議事次第の下の方に配布資料一覧ということで載せております。資料に不備がございましたら事務局までお願ひ致します。資料1から5、参考資料と用意しております。よろしいでしょうか。

それから、ちょっとご紹介になりますが、昨日の全国紙の夕刊等の報道におきまして、本懇談会について取り上げられております。ご参考までにお知らせさせていただきます。

それでは議事に移りたいと思います。ここからの進行は藤岡座長にお願ひしたいと存じます。藤岡座長どうぞよろしくお願ひ致します。

【藤岡座長】 改めまして藤岡でございます。どうぞよろしくお願ひ致します。それでは早速議事1、第1回有識者懇談会での主なご意見につきまして事務局の方から資料1を元にご説明お願ひします。長谷川さんよろしくお願ひ致します。

【主任海上交通企画官】 事務局から説明させていただきます。資料1をご覧ください。資料1では、前回懇談会の振り返りとして皆様から頂いた意見を4つに分類しました。

一つ目の灯台の魅力と価値については、特徴である視認性の高さにより、その地域を代表するシンボルとなっているもの、歴史的文化的価値の高さから文化財等に指定されているもの等、灯台そのものに魅力と価値が溢れている事。加え、灯台は行きにくい場所にあるが、見方を変えるとそこに滞在してもらえる場所と捉え活用につなげていく等のご意見。

二つ目の情報発信については、全国で実施されている灯台イベント情報が点在しており、情報を欲する人が色々なサイトを探さねばならない。灯台に関する情報を共有しターゲットを絞り込み全ての情報をサイトで紹介する等のご意見。

三つ目の地域連携については、灯台施設が単独で行うのは難しく協力者が必要。灯台の役割に加え地域の歴史、周辺観光情報等が付加出来るガイドがあれば訪問客の知的要求を満たすことが可能。地域活性化の為にも灯台に特化した地域団体を育て一緒に活動したいとのご意見。

四つ目のその他については、地域が灯台を活用しやすくする取組みと地域活性化に資する灯台活用は、ほぼリンクすると思われるところ、他者を巻き込んでいくためには情報発信力が必要。灯台周辺商店の方々の高齢化もある中、子どもたちは将来の灯台を考える意味でも重要。また若い人々が欲しくなるようなデ

ザインの灯台グッズの展開が出来れば、広報発信のツールとなり得る。灯台の価値を高め広げて行くためには、広報啓発に係る経費が必要であるが、国や自治体では予算捻出に苦勞しており、補助金や助成金にて何とか実施出来ている状況の中、クラウドファンディングによる資金獲得や保存活用の為の税を新たに設ける事を考える等、今後の課題としてのご意見を頂きました。以上です。

【藤岡座長】 有難うございました。灯台には様々な魅力があるという事を前提に、私が思うに価値というのは発見するものなので、歴史的価値や若いカップルにとってロマンチックな場所になり得る、観光地になり得る等の様々な事があるのを前提に、来て頂くための情報発信をしていきたいという事がひとつ。

それから海上保安庁はあくまで海の安全を守る仕事なので、灯台を観光地と資するためには地方自治体や民間の方々の協力が必要である点が確認されました。

しかしなかなか金銭面で難しい面もありますので、まずできるだけ多くのアイデアをここで出し、それを中間報告につなげたいと言う事で本日は是非活発なご意見をお願いしたいと思います。長谷川さんの方から説明頂戴した所で何か付け加える点がありましたら、是非お願いします。

それでは引き続き議事 2 に移りたいと思います。資料 2 について再び事務局の方からご説明をお願いします。

【主任海上交通企画官】 前回の懇談会でも灯台の活用事例として幾つか紹介させて頂いた所ですが、今回は灯台を支えて頂いている四つの地域団体を資料に掲載しております。

一つ目として福岡県北九州市の美しい部埼灯台を守る会、二つ目として宮崎県日南市の大島プロジェクト会議、三つ目として愛知県美浜町の美浜まちラボ、四つ目として本日お越し頂いている千葉県銚子市の犬吠埼ブラントン会。

この四つの他にも灯台を支える地域団体は多数存在する所ですが、活動状況に付きましては割愛させて頂きます。以上です。

【藤岡座長】 犬吠埼ブラントン会は長年活動して来られたので、その意義や活動について仲田代表にご説明頂きたいと思います。

【仲田代表幹事】 本日は犬吠埼ブラントン会の①主な取り組み、②設立経緯、③直面している課題の 3 点について報告させていただきます。

先に②の「設立経緯」から説明致します。ことの発端は、1995 年に犬吠埼灯台のホームページを制作したことでした。1999 年には、職業や特技で活動に貢

献して頂けそうな市民 10 数名に声をかけ、(1) 犬吠埼灯台とその設計者お雇い外国人 R.H. ブラントンに関する調査研究及び顕彰、(2) 灯台のあるまちや灯台関係者との交流、(3) 灯台の保存と活用の 3 つを目的とする本会を立ち上げました。普段はもっぱら代表幹事の私が個人で活動しており、灯台の周年記念等の節目に、会員の皆さんに事業案を提示し、作業の分担や臨時会費の拠出をお願いするというような方式で 20 年間活動をしています。

次に①の「主な取り組み」についてですが、第 1 に、灯台施設の保存・活用に関する提言や支援活動があります。一例をあげれば、本会が発足して間もない 2000 年、燈光会さんがちょうど犬吠埼灯台資料展示室の建設を計画しており、地域における世論形成といいますか、地域サイドからこの事業を積極的に支持する気運を盛り上げるため灯台シンポジウムを開催しました。初期にこのような経験をしたことで、本会としても犬吠埼灯台の応援団ないしサポーターという自らの役割に目覚め、それを活動のバックボーンとするようになって行ったと思います。(①-a)

第 2 は、周年記念事業やイベントの実施です。当会では 125 周年の頃からほぼ 5 年刻みで記念講演会やコンサート、映画演劇の公演等を実施してきました。代表的なものとしては、2008 年、旧霧信号所の廃止時に「ありがとう霧笛さようなら霧笛」というイベントを開催、廃止された霧笛舎の中を舞台としてレイ・ブラッドベリ作『霧笛』の一人芝居を上演しました。また、せめて霧笛の音だけでも残そうとプロの手で録音、これを CD 化して販売しました。さらに、霧笛舎取り壊しの可能性が高かった情勢の中で、学術調査は不可欠と提言し、燈光会さんが藤岡先生のチームに調査を委託する形で実現しました。さらにまた、2010 年、学術調査の結果を市民に周知するため当会が開催した「霧笛 100 年記念シンポジウム」の冒頭、CD の売上金から一部を寄付させて頂きました。(①-b, e)

第 3 の印刷物等の発行に関しては、各種シンポジウムの報告書、『犬吠埼燈台史』の復刻、140 周年記念の『犬吠埼灯台関係内外資料集』の刊行があります。これらは長年にわたる国内外での文献調査をはじめ当会の最も誇りとする研究顕彰活動の成果です。(①-c, f)

第 4 として、ブラントンの肖像と灯台を両面に彫った文鎮や霧笛舎のオリジナルペーパークラフト等々記念グッズの企画制作も手がけました。(①-d)

第 5 は、灯台つながりをエン(縁)ジョイすることです。本会発足当初からの御前埼灯台を守る会さんとの親交やライトハウス・ラバーズの会の灯台見学旅行、不動さんが主宰する灯台フォーラムへの積極的な参加を通じて、多彩な灯台人やマニアックな灯台ファン、さらに全国におられる元灯台勤務者の皆さんと交流を深め、明治の灯台建設に貢献したお雇い外国人の子孫達とも情報や資料の交換をしています。(①-g)

最後に③の「直面している課題」についてですが、早急に解決しなければならない課題と、これから取り組むべき課題の2つがあるように思います。なお、灯台の現状や本会の力量不足から、本会が自ら関わることのできるものだけでなく、単なる思いつきや外部への期待や要望も含まれていることをご容赦下さい。

第1に、本会では会員の高齢化により、次世代への活動継承が喫緊の課題となっています。(③-a)

第2は、灯台構内3か所にある展示スペースの整理統合です。近年展示物の劣化も散見されることから、3つのスペースがそれぞれのテーマと整合性を持って輝けるようにそろそろリニューアルの検討に入ってもよいのではないかと思います。(③-c)

第3に、灯塔のレンガ二重壁構造の見える化です。御前埼灯台では、一昨年の改修時に灯塔内壁に外からレンガの積み方がのぞける小窓を開けたようです。出雲日御碕灯台に至っては、窓ではなく、かなり広い面積の壁面をガラス張りにしてあってレンガの積み方が見られるばかりでなく、二重の壁を貫通するトンネルの中を覗くとレンガ(内壁)と切石(外壁)の真に二重になっている様子を見ることができるのです。一方、犬吠埼灯台はといえば、白亜の灯塔の美しさに安堵し、貴重なレンガ構造を見せる配慮がやや欠けているといえなくもありません。犬吠埼灯台の魅力を一段と高めるためにも、耐震性の確保や文化財としての規制をクリアーして、早期に実現したいことのひとつです。(③-d)

第4は、旧霧信号所の霧笛を再び鳴らしてほしいという要望です。これは灯台や観光関連のアンケート調査をすると必ず上がってきます。年に何回か復活させ、鳴らすことができれば日本で唯一最後の価値あるエアサイレンなのですから、きっと観光客や市民にもアピールするのではないのでしょうか。(③-e)

第5に、灯台施設の利用を拡大するという観点で、挙式を終えた花婿花嫁が白亜の灯台の前で写真撮影ができるようにしたらよいと思います。宿泊については、構内の施設を改修するとか新築しなければなりません、海外では灯台施設を民間で運営している事例も多いようです。(3-f)

第6に、夜間に灯台構内や構外園地でのキャンプや星空観察、音楽や演劇を上演できる仮設ステージの設置など、一時的なイベントとして試行してみるのもありかと思えます。灯台を海から見たい、夜見たい、夜見れば宿泊も増えるという連鎖で夜間灯台見学ツアー、船上から見る灯台ツアーなどは実現できそうですし、「月の階段」や星空と灯台の光芒の撮影教室等々をいくつか組み合わせたミニ・ツアーの可能性もあると思えます。

第7に、千葉県内の主要な灯台を見て歩く「房の国の灯台めぐり」ツアーはどうでしょう。(③-g)

第8に、いま銚子市では東京オリンピックとの関連もあって、台湾の桃園市

と接触しています。同市観音区にある白沙岬灯台は、日本が建設した台湾では唯一のレンガ造り灯台で、しかも二重壁構造なのです。昨年、女性研究者が灯台の観光活用というテーマで犬吠埼灯台との日台比較研究のため来銚、当会も意見交換や資料提供をしました。なお、本年11月、第2回灯台ワールドサミットを銚子市で開催する予定です。ワールド性をどう表現するか、ブラントン縁のスコットランドという案もありましたが、現在のところ今回は台湾の線で進んでいます。(③-h)

第9は、印刷物や映像等による犬吠埼灯台関係資料のアーカイブ化やコンパクトなガイドブックを作成し、ガイド養成のテキストにしたいということです。(③-i)

最後に、犬吠埼灯台では今年もGW中、5日に鯉のぼりを掲揚する予定になっています。これは毎年観光客や市民に好評を博している行事なのですが、鯉のぼりの上げ下げをどのようにしたらよいかという具体的な課題があります。これを継続していくには、海上保安部をはじめ、周辺の旅館業者や我々のような市民団体が協議してスケジュールを決め、皆が少しずつ作業を分担し合えるようにしていくべきだと考えます。地域連携というのは、規模の大小にかかわらずなかなか難しいところもあるようで、小さなことからコツコツと努力していかなければならないと思っています。(③-j)

以上です。有難うございました。

【藤岡座長】 ご質問等あるかと思いますが、不動さんの発表後に一緒にお受けしたいと思います。

【不動委員】 では私からは地域活用事例という事で、灯台をどのような方法で活用しているか大きく6つに分けその方法を紹介させていただきます。またもっとこうした方が良いかなと考えている点をご紹介させて頂く点についてお許し頂ければと存じます。

最初に「灯台登れる化」計画です。日本には年間通じ見学可能な灯台が16基あり、燈光会が所管していますが地元自治体が看板事業を行うという事例が出てきました。青森県八戸市の鮫角灯台です。毎年4月中旬から夏休みにかけて土日祝日、夏休み期間は毎日開館。犬吠埼とは比較にならないかもしれませんが、小さいながら非常に充実した展示室が作られており灯台守をされていた方がガイドをして下さる、とても理解の深まる場所となっております。また灯台ファンや旅行者のみならず近くに八戸線が通っていることから鉄道ファンも多く訪れています。灯台と電車の絶好スポットでもあり、鉄道を撮影する目的で灯台に登るという目的でもいらっしやっている様です。

こうした取り組みに続こうとしているのが、愛知県美浜町の美浜まちラボという団体です。これは地元団体で目標は2021年、再来年までの「登れる化」ちょうど野間埼灯台が100周年を迎えることもあって、です。町の方々が「登れる化」を推進している理由には美浜町が将来消滅する可能性がある都市のランキングに入ってしまったことがあります。灯台をひとつのシンボルとして私達で活性化するためのアイデアを現在募っています。例えば灯台で結婚式が挙げられるようにする。実際、週末は結婚式の写真撮影の為に訪れるカップルが多くおられます。また灯台をライトアップ、沿道を舗装する、灯台周辺の清掃をし、皆様にもっと楽しんでもらうビーチクリーン活動も行っております。ただちょっと難しいのが役場の人々の気持ちはまだ灯台活用の方に行っていない、というのが美浜町の人々の意見です。街中の人々とし登れる化の為に費用をクラウドファンディングやふるさと納税で賄えないか等、様々な意見が出されていますが、まだまだ難航中と申しますか進捗して行かないため、何とか灯台ファンからも「もし出来たら、行くよ」等「こんな可能性があるよ」等の情報を発信してほしいと考えており、私の方でも機会毎にそうしたお話をさせて頂いております。これからも応援したく見守って行きたいと考えております。

次に勝浦市の勝浦灯台ですが、日本航路標識協会さんが中心となり「登れる化」を進めている所で、実現に向け期待が高まっている所です。勝浦市は3月の雛祭りの際大きなイベントを開催していますが街中から灯台まではやや遠い。でもこの日に公開するという事で、市の方と協力して灯台までの循環バスが運行され、車でなくても行けるようになり「灯台に登れるとは知らなかったけれど、バスに乗っていたら登れるという話だから是非登るわ」と言う方も沢山居られました。私もお手伝いさせて頂いたのですが、灯台に登るのが初めてという方も多く、景色や灯台話を大変楽しんでおられました。登れる灯台が増加している事象は日本だけではないようです。例えば台湾も登れる灯台を増やそうとし、現在日本と並ぶ10基が可能なはずで、欧州ではフランスが36基、UKが18基で多くの灯台に登れるようになっております。ただ年間通じてではなく週末のみ、夏休みのみ。あるいは時間を区切って必ずこのガイドツアーに参加して下さい、という形で登る事を許可している所もあります。その利点としては多少階段が急勾配、触って欲しくない部分、危ない所があっても、必ずガイドさんがケアをするので、安全に登ってもらう事ができます。また灯台についてもガイド説明があるので非常に満足度が高いという事があります。日本でもこういう方法を取っても良いのでは、と思っています。費用に関しては日本では燈光会さんが200円を徴収され登ることが出来ていますが、欧州ではやや高めで大人ひとり1,000円弱です。しかし折角ここまで来たのだからと思い支払いますし、それ以上の感動をもらって帰っていきます。そして費用が高いからご家族連れは入れないとい

うとそうではなく、例えば家族割引や子供は無料、祖父母同伴で何名以上であればこれ以上の金額は取りません等の設定がある為、大勢のご家族連れで溢れていました。という点が、世界と日本の灯台登れる化の実情だと思います。

続いて周年イベントです。昨年日本では 150 周年という事で日本中にイベントがありましたが、個々の灯台で点灯してから 125 周年等があり大きかったイベントとしては一昨年 2017 年石狩灯台のイベントでした。このイベントに合わせて灯台はこの日は登れますという事をしたのですが、合わせて灯台歴史を学ぶ点がテーマとなり、そこがポイントだと思います。私も参加させて頂き灯台の魅力や歴史の説明も致しましたし、灯台で使用されていたレンズも里帰りしました。町の人々も 2 代目レンズをおかえりという感じで迎え、除幕式には地元中学生が来て地元メディアの方も来られ報道されていました。昨年初代と思われるレンズが市に寄贈され、灯台近くのセンターで展示されており非常に良い例かなと思います。

続き佐田岬灯台ですが一昨年 100 周年を迎え、ここでも大きなイベントがあったのですが灯台付近には広いスペースがないため、伊方町のイベント会場で灯台関連やカラオケ等ほとんどのイベントが開催され非常に盛り上がっていました。会場から灯台まで遠く、道路も曲がりくねっており渋滞してしまったり抜け出せないというような場所なのです。そこでバスを使いピストン輸送し、自家用車では行けませんが、皆さん灯台に行って登りましょうという事で、成功した良い事例だと思います。

そして塩谷埼灯台は今年 120 周年を迎えるという事で、まさに今地元の方々には「とよまの灯台」という名で呼び「とよまの灯台 120 周年イベント」として取り組んでおられます。27 日からキックオフという事で灯台周辺の清掃や花植え、灯台レンズ磨きや講演会が催される予定です。この地区というのは震災でも大きな被害があった所です。灯台を復興のシンボルとして掲げていらっしゃるのです。そういう意味でも力を入れている所なのですが、県と市からの補助金で総事業費の 80%位を賄い、残り 20%を寄付金で募るといふご報告を頂いています。

3 項目目として灯台ツアー。佐渡島の灯台ツアーや最近解禁となった第二海堡ツアーがあり、一昨年書いた灯台ツアー企画案というのがこの資料に載っているのですが、これは灯台マニアが書いた偏った企画書です。旅行会社の方にお見せしプレゼンしたのですが、今考えれば当然通らないよねと思います。当時の私は灯台が好き過ぎて灯台以外の事を楽しむなんて邪道だと思っていたのです。灯台行くのに折角だから温泉入ろうとか、美味しい物を食べようというのは灯台に失礼でしょ、と思ったので有る時間を使ってひたすら灯台を巡ろうというのが企画案となります。ですので、今私はこれをやりたいと言っているのではあ

りません。一部の灯台マニアには受けると思います、でも極一部です。しかしこうしたマニアックな部分を発信する事で、面白がって下さる方は沢山いらっしゃると思うのですが、一緒に行くとなれば美味しい物も食べたいでしょうし、灯台はその場所に立って見守ってきたのでその土地の歴史や文化、美味しい物、名産も絶対楽しむべきだなと考えを新たにしています。

そこで昨年、恋する灯台プロジェクトとし一緒にさせて頂いた鼠ヶ関灯台のチラシを大きくこちらに貼らせて頂きました。こちらのツアー内容ですが、ウェルカムランチとしインスタ映えする灯台のパフェが付いており、食事に関して言うとディナーは地元地魚の美味しいお寿司です。食べてみたら美味しくて、灯台だけじゃないねと思ってしまったのですが、こうして美味しい物を食べながら灯台景色を振り返るのも良いですよ。どちらもお店、レストランから灯台が見えるような近さにあります。その他のアクティビティーとしカヤックで灯台を眺める、貝殻を拾って絵馬に貝殻をボンドで付け願い事を書いて地元神社に奉納、そして勿論私も灯台のミニ・レクチャー30分程灯台の魅力や歴史をお話した後、一緒に灯台に行ってみ学するという時間もメインにありました。感じた事としては、恋する灯台という事で「恋」をひとつのキーワードとしているので参加はカップルとなっています。お友達同士でも良しとしていたのですが、実際は彼・彼女さんカップルでした。そうなってくると、逆に私は邪魔ではないかと思いつつ参加していたのですが、カヤックも貝殻拾いもどれも素晴らしいのですが、今後更に発展させていくとすれば、これはひとつのモデルツアーで良いのですが、やり方を発信する事で皆さん自分達のタイミングで行けば灯台をふたり占めできるし、もっとロマンチックな内容になるのではと思いました。

その発信方法として現在考えているのが、犬吠埼さんから配布頂いた冊子にもコースが指定されていましたが、全国の灯台を楽しみ方のモデルコースをこういうガイドブック方式で発信できたらいいなと思っています。「地球の歩き方」というガイドブックがありますが、「灯台の歩き方」というのを狙っておりまして、今具体的に話を進めている所です。本だけでなくネットで情報もあれば良いでしょうし、温泉番組を観ていると温泉に行きたくなるように、できれば灯台番組が出来たらいいなと思います。「不動まゆの灯台練り歩き」でもなんでも良いのですが、やりたくて。キー局で扱って頂ける内容でなければ自分で撮影しYouTubeにあげ、楽しさを皆さんと共有できたら私達も行こうかとなるのが、私の今の考えている目標です。最後に付け加えたいのですが、今このように地元の方々も灯台に登れる化しようあるいは活用しようという動きがあるのですが、やはり継続性が重要かなと思っています。登れるようになっても自由に登って良いですよと言ってもなかなか人は集まらないのではと考えますし、ここで面白いことがあるよとならなければなかなか人は集まらない。そこで何でも良い

のですが例えば夏はキャンプが出来て夜空を見ながら皆で一緒にご飯を作って食べる、あるいはミュージシャンが来て皆で音楽を楽しむ、春は野菜ショップやフリーマーケット、夏は縁日やビアガーデン、といった事を地元の人々が毎月何かやろうと。アイデアを出し採用された人がイベントを取り仕切る形で、毎月灯台に行くと何かやっている、面白いよという事が当たり前のようになれば良いなど思っている所です。以上です。

【藤岡座長】 では質問を受けたいと思います。では寺崎さん、観光という観点から。

【寺崎委員】 不動さんの発表に対して失礼になるかもしれませんが、例えば犬吠埼に行った際の目的は金目を食べに行くことで、そのついでに灯台を見学しました。高知県に旅行に行った時に室戸まで車で足を伸ばしたのもやはり魚を食べに行くことが主目的でした。とても灯台マニアとはいえませんね。

観光という立場から今のお話をうかがうと、凄く灯台が好きというコアなターゲットという層は必ずあるのですが、ある意味ニッチな所にフォーカスしたような取組みが必要になります。情報を上手く伝えさえすれば必ず動いてくれます。そこを核にやって行くというやり方と、一方で今のカップルの話もそうなのですが、より広いターゲットを想定してそこから灯台との関わりを作っていくというやり方があり、それぞれ違うのだらうなと思いながら伺っていました。

またツアーについても色々な企画があるのですが、僕ら観光の世界でも 1980年代までは旅行会社が企画を立て全体を動かそうとしていたのですが、2000年代に入ってから地元主体というか着手型と表現するのですが、販売については大きな流通を持っている東京サイドの協力を得ながらやるのですが、作るのは地元主体。そこに住んでいるからこそ、ずっと暮らしてきたからこそ分かるような瞬間、瞬間、灯台を見るのも季節によって違うし、光の当たり方によっても違うし、見え方も違うのが分かっているのは地元で、そこに関わってきた人達だからできるというツアーを、地元の人達の中で考えて組み上げるという商品作りです。我々はこうした素晴らしいものを持っているのだから、是非皆さん来てくださいという流れにどんどんなっていると思います。

そういう点でも先程の銚子の犬吠埼灯台は代表的な例だろうと思います。そうした地元の取り組みを活性化させるのと、どうやって流通に結び付けていくか等、持続的なものにしていくにはある程度商売にならないと、地元が儲かるようにならないと繋がっていかないというのは色々な所で見えています。幾つかのそういう想いを上手く繋ぎ合わせ、事業として何らかの形でマーケットに

アピールできるような仕組みが幾つか地域で出来てきて、それを真似て色々な所に広まっていければいいと思いながらお話を聞きました。質問という事ではないのですが、お二方のプレゼンに対する感想となります。

【藤岡座長】 有難うございました。やはり経済的問題は大事なのですが、本当に良く活動していらっしゃるとはいえ、ボランティアに頼っていますよね。ボランティアの限界はどのようにお感じでしょうか。

【仲田代表幹事】 そうですね、活動の出発点として観光というお金儲けには直接関わらない、歴史文化の調査研究から入りましたので、その部分は意識の上で希薄なところではあります。ただ、継続性を持たせるには経費の捻出も必要で、そうした仕組みを作るためには観光を業としている人達にも参加してもらい、灯台の保存活用のための幅広い話合いができる場が必要だと、鯉のぼり掲揚の経験を通じて改めて実感しています。

【藤岡座長】 その点で使途の関係も少し教えて頂きたいのですが、私は基本的に先に名前が出たデービッド・アトキンソンさんのような、ちゃんとお金を取る、やはりお金を取ることをしないと続かないと思うのですね。仕掛けをやるためには業者や食べ物関係の方、そうしたボランティアの団体を繋ぐようにする。市、行政から例えばブラントン会とどのようにお考えになるか、ちょっと教えてくださいませんか。笹本さん。

【笹本委員】 第一回の有識者懇談会でも申し上げましたが、銚子市には犬吠埼ブラントン会の活動が灯台の保存活用では切っても切れない形となっています。仲田さんからもありましたように、色々な提言を頂いております。その都度銚子市として霧笛舎の保存活用の件も国交省さんとしては機能を廃止するのでどうしよう、という時に藤岡先生からの文献もあり貴重な資産になると、それならば銚子市としても後世に残すべき資産であるという観点から、経費を今も捻出し維持をしているという状況でございます。一方、犬吠埼ブラントン会の活動において経済的な活動、不動さんもご提案のようなツアー化ですとか経済に活かしていく取組はまとめ切れていないように思います。課題としている所で、私も発言しようと思っていたのですが、現在銚子市では観光 DMO の取り組みをしようとしております。

そうした取り組みが成熟化していけば自立、自走をキーワードに関連事業者様が協議をし考えていくといった機能を持たせていく事ができるのではないかと思います。

【藤岡座長】 同じような事で志摩の方では、例えばそういう観光という事で行政として何ができるか、何か具体的なお意見、提案ございませんでしょうか。

【鈴木委員】 志摩市でも灯台周辺市民の方々が、今街づくり委員会等の形で、もっと活用し地域起こしができないかという事で、色々な協議を頂いているのですが、先程から出ています観光と結びついて稼いでいく仕組みには、まだなっていないという現状があります。私共としても継続していくためには幾分かお金が入って来る仕組みがないとやっていけないというのは認識してはいるのですが、うまくちょっと噛み合っていないというところがあります。お土産屋や宿泊施設が灯台周辺にありますという情報発信はしているのですが、そこをマンネリの状態になってしまっているのが今の課題かなと思っています。

ちょっと話が変わりますが、灯台がある所にもっと何か別の切り口で人を寄せる方法はないか、という事で課の中でも色々な話をしているのですが、最近ドローンを活用した風景を撮影したりして、来た人が画像をアップしていくという仕組みがとれている所があり、そこに安乗岬の方にドローンを持っているマニアの方々に来てもらってそこで風景を撮影してもらい灯台と一緒に撮影した映像をインターネットの方にアップしていただくという事で、最近スポット登録をさせて頂きました。そういう事で、もっと知ってもらう事で人に来てもらう事を先にやっているところになります。先程不動さんが仰られていたYouTube何かでの灯台巡りは面白いなと思いますので、そういった企画があれば是非一緒にさせてもらえる部分は一緒にさせてもらって、情報発信に努めたいなと考えています。

【藤岡座長】 有難うございました。もし分かれば、で良いのですが犬吠埼の場合、参観灯台で一番人が集まる所ですが、外国人がどの位の割合なのか分かるでしょうか。外国人参観者の割合、燈光会の方がお分かりになりますでしょうか。

【燈光会】 申し訳ないのですが、データは取っていません。増えている、多くなっている、人が来られているのは確かですが。データが無いので何とも。

【藤岡座長】 例えばアジアが多いとか、傾向は分かりますか？ なんとなく印象で結構です。

【燈光会】 申し訳ない、各事象別の内容までは・・

【藤岡座長】 犬吠埼では外国人はどの位おられますか。

【笹本委員】 具体的な数字という事であればまだ分からないのですが、先程仲田さんからお話がありましたように、2020年に向けて台湾との交流を進めており、台湾のお客様は個人旅行が多いので結構来ているという事です。残念ながら宿泊者の統計しか取っておりません。割合としては欧米よりアジア、台湾、中国の方が多く、数字は確実に宿泊者等が上がっています事から確実に増えているという認識をしています。

【藤岡座長】 仲田さんどうですか。

【仲田代表幹事】 犬吠埼灯台は明治後期の参観開始以来ほぼ全国一、ないしはそれに準ずる高いランクを保持しています。入場者数は年間10万強で、震災の影響により一時激減しましたが、やっと元のレベルまで戻ってきたというのが現状です。一方で、銚子市発表の観光客入込動向を見ますと年間246万人(2018)になっています。さらに、隣の旭市の郊外に数年前にオープンした道の駅の来客数が年間106万人(2016)というのですから犬吠埼灯台が10万強というのは何とも不思議な感じがします。祝祭日や週末とウィークデイとの落差や、旅行スケジュール、灯台施設自体のキャパシティーなども関係がありそうです。現在はビッグデータの時代ですから、観光客の行動をもっときめ細かくデータ分析し、実態を把握することが急がれると思います。

【藤岡座長】 志摩市では外国人はどの位いらっしゃいますか。

【鈴木委員】 私共の数字も宿泊者数がメインとなっており、割合では中国、台湾、韓国がパーセンテージで言うと6,7割となっています。一部の宿泊施設の所で欧米、ロシアというのも数字には入っていますが、数についてはまだまだといったところになります。

【藤岡座長】 ここには灯台を良く知っている人は多いのですが、外部目線も重要で、その点大橋さん何かご質問、ご意見ございましたらよろしくお願いします。

【大橋委員】 皆さんのお話をずっとお伺いし、凄いな、こんなに灯台が好きな人が多いのだなと思って改めて驚きました。不動さんが仰られていた一部の灯台マニアの方に対しての情報発信は、どういう切掛けで火が付くのか。山ガールですとか刀剣女子等といったものがどう火がついて行ったのか分からないので、

継続的な情報発信は必要だろうと思います。

弊社は芸能プロダクションなのでお笑い芸人を抱えておりますが、その中で最近ですが夢屋まさるといふ若い子が、どういう切掛けか分からないのですが凄く人気が出て来まして、そうするとツイッターやアクセス数も高くなる。するとそういったお店の方からツイッターでつぶやいて下さいと言われて、つぶやくと店もまた人が増えるという循環が起きています。他方でこういう風に表に出ていく人は僅かであり、大半の人が表に一度も出ず芸能界から去って行くというのが現状です。一部の灯台が好きな人達だけをターゲットにしての情報発信だけでは継続性や発展性の点で難しいのかなと思いました。

私自身は灯台の知識が殆どありませんので、この会に参加するにあたり灯台はどのような所だろうと再度自分なりに見に行ってみました。自宅近くの観音碕灯台と劔崎灯台に行ってみたのですが、観音碕の方は週末バーベキューが出来るという事もあり、そこそこの人々が訪れていました。しかし劔崎はロケーションが凄く良く東京湾の近くで房総半島を一望できます地で、ちょうど私が行った際は潜水艦も航行しているという珍しいものを見ることが出来たのですが、2,3時位に行き1時間くらい滞在したのですが、誰もいらっしゃる方がおられませんでした。

そこにいて思ったのですが、灯台活用しての地域観光が今回のメインですが、灯台だけでなく灯台敷地を含めた活用を考える余地があるのではと感じました。先程キャンプというお話がありましたが、そういったのも良いと思いますし、最近流行のグランピング等、地方自治体や地元の人々へ負担を強いるのではなく、民間の力を活用する。そして、そこに地元で採れた野菜や魚などがありますよ、とお互いにウィン・ウィンの関係を作っていくのも灯台活用の点ではあるのではと思います。

灯台というのはある意味シンボリックな存在ではありますが、それだけを活用しての活性化というのはちょっと限界があるのではないかな、と言うのが二か所の灯台を見た時の感想でした。

【不動委員】 今お話に出ていたグランピングなのですが、灯台ワールドサミットでも是非やりたいとアイデアとして挙がっているものなのですね。でもどうしてもやはり、グランピングするにはなかなか準備も大変で、地元や市の方々だけでやるのが難しくまだ出来ていないのですが、試しにやってみてその反響が良ければきっと一般の会社の方もやって下さるのかなと思っています。というのも劔崎、私が大好きな灯台なのですね。もう夜がとても綺麗なのです。レンズが白と緑の露光でしかも塔が低いので良く見える。登らなくても近くに行くだけであそこは満足できるので夜見るのが本当に良いと思っています。

またサンミュージックさんという事で、芸能人の方の力、発信力は凄いですよね。私が今ちょっと思っているのは日本の各灯台で、芸能人の方が、例えば凄い人気のある所でAKBさんや三代目さん等グループとして多くいらっしゃる人達が、例えば僕は犬吠埼灯台、私は劔崎灯台といったように自分の灯台をイメージとして作ってもらい、そこの灯台の場所に行くと写メで灯台と一緒にその人と撮れるVRみたいな。そこに行かないとフレームが出てこないとか、ありますよね。そんな感じにしたらファンの方は間違いなく行って下さいますし、季節毎に変わるとなれば季節毎に行ってくれるのではないかと思っています。それが生身のアイドルや芸能人さんであればちょっと大変という事であれば、やはり二次元でゲーム化し、ゲームのキャラクターと撮れるといいなと思っており、実際ゲーム企画はある程度の所まで進んでいるのですが、ゲーム会社の方々がなかなかアイデアを買ってくれないという所がありまして、灯台も劔崎に続けとちょっと考えているアイデアが実はあります。何かゲーム会社さんと関わりがあれば教えてください。

【藤岡座長】 そういう意味ではどんどん助けて頂いた方が良い、皆さんも是非よろしくお願いします。これまでの話ですと灯台の周りに人が沢山来るとか、灯台の中を見せるチャンスという事で、海上保安庁としてはどこまで協力可能なのでしょうか。

【海上交通企画室長】 そのグランピングですとか、車で行って灯台の敷地内で宿泊となった時に、準備や受け入れ態勢、特に安全面などをしっかり検討していかないといけないという点と、灯台敷地は国有地や自然公園などという事もありますので、法律上の縛りだとか、ひとつひとつ検討して行く事はあるかなと思います。そういった具体的なお提案を踏まえながら考えることになると思います。

【藤岡座長】 幾つかモデルケースでやってみる可能性はあると思って良いのでしょうか。

【海上交通企画室長】 具体的に、今やれる、やれないというのはなかなかお答えすることが難しいところです。今すぐ、大々的にやっていくのは難しいと思いますので、やりやすい灯台があれば、ちょっとスポット的に検討するとか、当然そうなりますと地元の方や地元の保安部と検討していくという事になると思います。

【藤岡座長】 不動さん、それではここはと言うような、どこか今可能性ありそうな所は。

【不動委員】 安乗崎は凄く敷地が広いので、例えばグランピングにはぴったりだと思います。でも劔崎もそこそこスペースもありますし、洲崎もそんなに広くはないですが芝生があります。灯台の手前に広いスペースがあればグランピングやお祭りは十分出来ると思います。

【藤岡座長】 主催者が参加し責任を持つと言う事は必要。

【不動委員】 絶対条件ですね。

【藤岡座長】 他に何でも良いので何かありますか。鈴木さんいかがですか。

【鈴木委員】 逆に不動さんにお聞きしたいのですが、灯台活用プランの中で周年イベントや灯台ツアーのご説明を頂きました。自治体に関わる初めての登れる化計画で行政が関わっておらず寂しいというお話がありましたが、我々先程申しましたように、観光にしていくなために自治体も少し接点や調整役になる必要があるだろうと、そういう役割として観光があるだろうと、今議論され検討しているのですが、其々実施しているイベントで行政に関わりある好事例や悪しき事例、芳しくない所があれば、言わずらいかもしれませんが教えてください。

【不動委員】 そうですね、自分も全く別の仕事を持っており大学職員という立場で大学の学芸員をしています。その時も感じるのですが、自分で考えたイベントのアイデアはもの凄い熱量を注ぐのですね。私の場合、灯台に凄く熱量を注ぐので何としてでも成功させようという想いがある訳ですが、例えばある市に行って「やりませんか？」と言っても、その担当者の方が「よしやろう！」と思っていない限りはどうしても持って行きづらいのですね。例えば上から、市長から言われたから僕は担当なのだとされてしまうと熱量が違う。そして人も集まって来ない点があり、それでいつも私が思うのは、どうやってその担当者の方に、面白いと思ってもらえるか、確かにそんなに面白いなら市民の皆様や日本中の皆様に伝え広めたいと思ってもらえるか、なかなかそれだけの時間が取れず想いを共有できないのですね。

その時感じていたのは、まだまだ私の発信が足りないのかなと言う事で、地元の人達や担当者が灯台は勿論面白いと分かっている状態にまで何とかできないかなと考えます。市の方、町の方と触れ合い等、何かありますでしょうか。皆さ

んお忙しいだろうなと思いますし。一番難しい所が、市の方々や担当者の想いを上げる事です。いつも、不動さんはそこまで灯台が好きだから・・・だけど、と傍観される事が多いので。例えば銚子市のように。銚子ではまず市長が灯台の歌を歌ってくれるじゃないですか、我々にとって犬吠埼は大事だという風になれば、そこで働いていらっしゃる方々の想いもそうなるのではと思います。地元の人達もそうだよなという気持ちが無いといけないと思いますが。

【藤岡座長】 行政は一般論として言いにくく、たまたま担当者が凄く乗ってくれる人とかそういうのがあれば上手くいく。ですので、まずはそういう所からやってみる。

【不動委員】 そうですね、ではどうしたらそういう人達に会えるのかな、というのと。また難しいのは、良くて行けそうと思った時に4月で担当交代しましたという事もあり、そこがちょっと切ないですね。出会いと別れが。

【仲田代表幹事】 長いことひとつの活動を続けているということもありますが、銚子市や海上保安部と普段から良好なコミュニケーションを心がけることで少しずつ我々の団体や活動に対する理解が深まっていったように思います。一旦築かれた信頼関係は窓口の担当者が代わってもちゃんと引き継がれていて、折々「こんな助成制度があるけど何かやってみない？」と声をかけて頂いたり、こちら側もそれならば『犬吠埼灯台関係内外資料集』の刊行とか「犬吠埼灯台乙女養成講座」でもトライしてみるかという具合に新規の活動に踏み出す弾みを付けて頂いています。

それと先程から来出ている論点ですが、やはり灯台は単独ではないということですね。地域の豊かな歴史文化や自然環境の中に灯台という存在があるわけですし、実際犬吠埼の場合、かなりお楽しみの要素が灯台周辺に散らばっています。例えば、四季折々に海岸植物や魚介類を観察できます。文化人来銚子の足跡や文学碑も多く、海浜で楽しめるジョギングやスポーツも楽しめます。新年の銚子半島駅伝や秋のサンマ・マラソン、トライアスロン、よさこいソーラン大会、鯖サミット、ぬれせんべいで有名な銚子電鉄、日本一を誇る魚やキャベツ等々、タレントさんが頻繁にやって来て食レポをしています。実際、犬吠埼灯台こそは銚子にあるこれら一個一個のお楽しみの要素を真珠のネックレスのようにつなげていくその中心的な存在だといえます。ところが、もう一方で、ネタは沢山あるけれどどうもうまくつながっていないというのも事実です。

【藤岡座長】 そういう話も出ていますが、本当はそういった情報を色々な自治

体も見られるようになるとお話が少し変わるかもしれませんね。それはやはり課題で、皆さん地域活性化は絶対やらねばならないと思っただけですが、方法が分からない。いい事例が見えてくるとより良い方向に進んで行くかもしれません。以上資料2についてはよろしいでしょうか。

それでは資料3「灯台活用の拡大に向けて」を事務局の方からご説明をお願いします。

【主任海上交通企画官】 資料最初のページには、前回の懇談会における委員の皆様のご意見を踏まえ今後の議論の方向性を整理したものを簡易的に示しております。先程交通部長からの挨拶にもありましたように、情報発信と地域連携の二つを検討の中心にしたいと考えており、資料2ページには発信方法と発信内容、地域連携については地域連携の枠組み、文化財や観光コースとしての活用、若者が親しみを持つような新たな活用の3つを抽出しています。

それでは資料3ページをご覧ください。灯台に関する情報について前回頂いたご意見から、知りたい情報へのアクセスを容易にする事と、全国の灯台に関するイベント情報を探しやすくする点が課題として見えてきた所です。これら課題に対しては情報掲載手法の改善、イベント情報の集約について検討が必要と考えており、事務局からは資料4ページに具体的な方策を提示させていただきます。

現在インターネット上だけでも灯台に関する様々な情報が海上保安庁を始め、地方自治体や灯台に関係する団体から発信されていますが、今後は、これらの情報のアクセスを容易にするため、入口となるポータルサイトを設ける。そこに全国で開催される灯台イベント情報をリスト化して探しやすくする事は勿論なのですが、先程からお話がありました外国からの観光客のためにウェブ情報の多言語化に加え、現地でのWiFi環境が整っていることが理想と考えております。

また各地域の観光紹介HPに、これら灯台観光に関する情報のリンクを張ることで、灯台情報の入口の多様化が図られると思っております。さらにはHPに限らず、新聞・雑誌・TV、映画やミュージックビデオに灯台が映しされるような様々なメディアへの働きかけも必要と考えております。

次に資料5ページをご覧ください。どのような内容を発信するかについては、灯台そのものに価値と魅力がありながらこれらを伝えきれておらず、灯台の情報と灯台周辺の地域情報がつながっていないという課題が浮かび上がってきたので、事務局からは資料6ページに具体的な方策を提示させていただきます。

情報の充実については、灯台全体の歴史的流れや個々の灯台が持つ郷土史、灯台守と地域の関わりなどのトピック、建築学的に見た素材や構造等建築物としての高い価値、灯台が船舶の安全航行に寄与しているというインフラとしての重要性に関する情報を充実させる事として、これらを灯台周辺地域の観光施設、

お祭り等のイベント情報をリンクさせる。更には灯台そのものの情報だけではなく、登れる灯台からの眺望の素晴らしさ、灯台を含む季節・時間限定のシーンが撮影できること等を紹介できれば考えております。また昨年の灯台 150 周年に合わせ配布していた灯台カードについても、普段は目につきにくい視点からの画像等、コレクターの心をくすぐるようなものを提供できるのではないかと考えております。

地域連携について資料 7 ページをご覧ください。前回の懇談会では地域に根付いた団体があると心強いとの意見を頂いた所です。灯台を活用した地域活性化のためには、市町村を中心に地域の商店街、観光事業者、灯台関係団体、地元の海上保安部等の関係者による協議会のような組織が一致団結して取り組むことが重要だと考えています。個々のレベルでは限界があっても其々の立場、得意分野を持ち寄ることにより、今までとは違う大きな取り組みが行えるのではないかと考えております。この協議会のような組織は、一から立ち上げるばかりではなく、既に組織化されている観光・地域活性化の枠組み、また灯台を文化財に指定する際に設立される枠組み等があれば、これらの組織が活用できるものと期待している所です。

続きまして、文化財や観光コースとしての活用について資料 8, 9 ページをご覧ください。灯台だけではなく周辺地域の魅力を上げる必要があるというご意見を頂き、今一度灯台そのものの価値を再確認し、歴史的に特に価値の高い灯台については文化財指定を推進し、文化財としての灯台を核として新たな人の流を呼び込むと共に、地域と一緒に文化財の保存と活用を図る事で地域との連携がより強まるものと考えます。また文化財等に指定されていない灯台にあっても、灯台周辺の土地利用を促進することで、灯台までに至るアクセス改善を図り、サイクリングやハイキングのゴール地点、先程ありましたグランピング等も使えるようランドマークとしての活用が出来るものと期待しています。

続きまして資料 10 ページをご覧ください。若者が親しみを持つような新たな活用です。若者のアイデアやイベント等が地域活性化や流行の起爆剤になる事例は数多くありますが、灯台関連につきましても、デザイン灯台、アートペイント、プロジェクションマッピング等灯台にプラス α の魅力を付加する事を実施してきました。このように灯台に馴染みのない人を新たに引き寄せる為の方策として、資料 11 ページに提示させて頂きます。デザイン灯台を進めていくためにも、これから新たに建て替えやリニューアルを行う灯台にあっては、地域のシンボルに相応しい灯台となるようなデザインを子どもたちを中心とした地域住民の方々から募集する。また若者が興味をそそられる写真文化、いわゆるインスタ映えに乗っかれるよう、灯台へのアートペイントや 3D マッピングで灯台に新たな魅力を付加していく。この他イベントが開催されていない地域へは、イベン

ト成功例等を紹介し、灯台の活用方法について更なる周知を図っていく。加えて映画やドラマのロケ地に登場する地域・施設は、新たな人の流れにつながる可能性を秘めておりますので、フィルムコミッション等の関連団体との関係作りを行っていくことも必要ではないかと考えております。資料 3 については以上です。

【藤岡座長】 懇談会はもう一回しかないので、何等かの提言を出す必要があります。その為に前回及び今日皆さん議論頂いていることを含め、資料 3 はかなり包括的な提案をして頂いています。それについてご意見・質問をお願いできますでしょうか。大橋さんお願いします。

【大橋委員】 地域連携という所で、では私共がどういった所がお力添えできるのかと思う所で、イベントの時の集客力増のためにタレントを出すとか、出来るのかなという風に今お伺いして思いました。また法整備必要性の話もありましたが、灯台が立っている場所、その周辺活用をより検討を促進していき、使えるようにした方が良いのかなと、改めて資料 3 を読んで思いました。

【藤岡座長】 有難うございます。実はこれについてのポイントは誰がやるかなのです。そこを考える必要があります、一番そこが問題かもしれません。寺崎さんこの件についてご意見お願いします。

【寺崎委員】 基本的な所で情報発信という事なのですが、全国一律でやるポータルサイトと言うような事と、地域単位でやる事、消費者に任せる事に分けて考えると良いと思います。全国でやる事は専門家の方にポータルサイトを作ってもらい、日本百景とか登山ブームも百名山から始まっているのですが、ここここが素晴らしいから行ってみると良いですよ、というのを分かりやすく推奨してあげるとよいと思います。情報をちょっと色分けしてあげるという点がアイデアでしょうか。全国単位でのムーブメントを作るのに 100 灯台ですとか、行ったことにより記録が残り達成感が味わえる目標を作るとか。地域毎の情報発信は地域連携という点でこの後に触れます。もうひとつ今我々の中ではプロモーションは消費者がやってくれるという前提があり、この影響力はかなり強いとみています。そこに行って SNS を使い、写真を撮って知人や知人以外の人々に広めていくというようなことです。この動きを上手くいかせるためには、そこを訪れた人に対してきちんとした満足感を与えられるようなものをひとつひとつ作っていくことに他にならないのですよね。

灯台もなかなか写真を撮れるスポットがあつたり、なかつたり。ここからなら

絶景が撮れると思ったら木があって、この木を一本切ってくれば綺麗な写真が撮れるのに、と思う事があったりとか、そういう利用者目線に立つと、どういう体験や滞在が出来るのかを一か所一か所、ひとつひとつチェックしなければなりません。あるいは灯台の背景には海があり、日常的には体験できない空間になっているので、ゆっくり座って海と灯台を眺めるとすれば、ベンチが必要ではないか。ではどこにベンチを置けば良いのか、ベンチの形はどうするのか、丁寧に見て、整備して行けばおのずとそこで良い体験をした人々がどんどん声を広めてくれるのが一般の状況なのだろうなと思っています。

地域単位で情報発信を行うという点では、地域内で連携しても誰がやるのか、7Pに協議会の事があるのでここがやればいいのでしょうか、先程から観光振興サイドで出ている観光DMOの役割になるかと思えます。この基本的な概念は観光地経営主体ということですが、先程の銚子市さんのお話にも出て来ましたが、恐らく行政体よりフットワークが軽く、ちょっと人の動きだとか民間的な事だとかがしやすくなっています。ただ、諸々の財源が今問題になっており、我々の領域での大きな話題となっています。その点を除けば、中心となって市や町の為にどう灯台を活用できるのか、あるいは今まで活用できなかったものの、ちょっとここに相談すれば灯台の利用促進に資するような配慮をしてもらえるのではないかと思います。

これから話すことは、好みの問題ですが、ライトアップやペイントアートというのは好き嫌いがわかれますね。例えば日本を代表とする法隆寺が観光対象となった時、法隆寺ではそれをやるのか、富士山ではやるのかと。それぞれものに力、人を感動させる魅力があるものはいかに見（魅）せるか、どう感じさせるかという点が勝負になるのですが、灯台ではその力をどう考えているのか。ライトアップするのが、灯台の素、本質なのかどうなのか。僕はちょっと違う考えです。違う人の考え方もあるので、何が正解かわかりません。どうやって集客力をつけ、そこに行って楽しい体験をしてもらおうかを考えた時に、真珠の繋がりという話が先程ありましたが、灯台単体を見て楽しいと思う人もいれば、それに関わる説明を聞いて面白いと思う人もいるのでしょうか。わざわざ出かけて行く中には知的な欲求を満たすため、お勉強的な事を好む人もいるのですが、お勉強的なものであっても旅行というのは遊びなのですよね。いかに楽しいか。いかにそこに行って心が動かされるか、という事だと思うので難しいことを伝えるにしても、いかに楽しく印象に残るように伝えるようにするのが非常に大事になってくると思います。

ここに歴史的価値を伝えようという話になっているのですが、「ブラタモリ」という番組、あれは非常に難しい事を言っているのですがとても面白いですよね。この説明をするのにこれがお茶です、どこの産地でお茶を作っているのです

という説明はせず、周辺の関連事項の説明からはじめて、最後にそこに至るストーリーが組みあげられているので、心が動くのだと思うんですね。あの解説を見ると、まずどういう地質で、その上にどういう地形が出来てきて、どういう人々が、暮らし営みがあり、その人物との関わりとの中から歴史が作り上がったかを一方的に話すのではなく、相手に気付かせる。触ったりして五感を上手く働かせて気づかせ、そこに正解を乗せるという上手い手法で作られているわけです。灯台の歴史を伝えるにしても、なぜそこにあり、これまでどういう人々が関わってきて、特徴的な地形な所にある場合が多いのでなぜそういう地形になってきたのか、どうしてその近くに町が出来ているのか、あるいは町がなかったのかを含めて、色々なスポットを巡り最後になって一連のストーリーになるような見せ方にしてもらえると楽しいのかなと思いました。資料類にもそういう事が描かれているのだと思うのですが、それを地元で汲み上げて頂き、市場に乗けていけるようになればより面白い灯台ツアーが出来るのかなという感じを思った所です。すみません、取り留めもなかったですけど。

【藤岡座長】 事務局の方で今の事、何か加えることはできますか？コンテンツを丁寧に説明し、満足感が大事というように。

【海上交通企画室長】 はい、盛り込んで行きたいと思います。

【不動委員】 先程若者が親しみを持つようにというのがなかなか難しい、と。私ももう40歳。40を超えてしまって今の10、20代がどんな事に楽しさ、面白さを感じるのか知るのが難しい。ただ大学勤務なので、大学生と話しているのですが、結局同じなのだけれど、ちょっとした視点が違うよね、きっかけだけだよというのが私の実感で、そこの彼らの意識をもっと敏感に感じ取って頂くというのは常にあります。ここで例えばこうやって猫のマッピングがしてあって若者が喜ぶか、勿論私もネコは大好きで可愛いなと思うのですが、先程寺崎さんが仰られた様に、私は灯台の素の姿が一番美しいと思います。ただ期間限定で今だけこんなものがあるよ、となれば灯台ファンは勿論ですし、ちょっと面白そうという切掛けにはなると思うので、期間限定でのライトアップやプロジェクションマッピングは全然良いと思います。

しかしそれだけではなく、素の姿をもっと美しく見てほしいとなると、良く写真を撮る時にあるのですが、立ち入りサインのサイン等が映ってしまう事があるんですね。必要なサインではあるのですが、ここに貼らなくても良かったりするのではないかな、というのもあったりするのでそういう場合は重要なサインでも、これからの意識として、ここを訪れた人がどこから写真撮影をしたいと感

じるだろうか。そこには入らないけれどメッセージは伝わるような方法があれば良いのかなと思います。

【藤岡座長】 有難うございました。では鈴木さん自治体という立場から何かご意見ございますか。

【鈴木委員】 ポータルサイトを設けてというのは良いのですが、誰がどういう予算でという所がまだ私は理解不足で分からなかったのと、インバウンドのところではウェブ情報の多言語化やWiFi整備の話がありましたが、以前伊勢志摩サミットを開催した時、市内のWiFi化を検討した事がありまして、その時どうしても立地が、どうしても田舎なので灯台のある所までWiFiが届かないとか、そういう事もあり、こういった事も出来るならば是非やりたいとは思いました。ちょっと私の無知であれなのですが、灯台デジタルカードを充実させるとありますが、各灯台の紹介カードみたいなもので良かったでしょうか。

【海上交通企画室長】 はい、150か所の灯台について、現地に行ってその灯台を訪れて頂きますとQRコードがございまして、そこでパシャッと撮って頂くとカード形式で灯台に関する情報がダウンロードできるようになっているという仕組みでございます。これは行かないと撮れないという所で、一応、現地に足を運んで頂ければ、という企画となっております。

【鈴木委員】 すみません有難うございます。デジタルカード等と同じで御朱印帳という神宮等を回る時に書いてもらうものがありますが、最近、御朱印帳を持って地域を訪れる方々が増えています。実際伊勢神宮で見ますと凄い行列で。一日で出来るのかなと思うほど御朱印を書いてもらう事を目的にお越しになるお客様がお見えになることがありまして、デジタルカードを上手く何か活用してそういった、来たい、集めなくちゃみたいな仕掛けがもうちょっと出来ればなど感じました。

【笹本委員】 今ご説明を受けていましてポータルサイトの配信は有難いと存じます。ただ先程のお話のようにSNSが発達してインスタグラムなどがあり、情報発信は個人レベルで進んでいますので、そういう意味ではポータルサイトが本当に有用なのかどうか、どう情報を作るのかについては検討が必要かなと思います。ただ本市の場合、情報発信はまだまだ下手でございますので、ポータルサイトを足掛かりとして、灯台に関する様々な保存活用に関する情報を集め、一体化出来れば良いなという想いが致しました。

その中で情報発信もそうなのですが、地域連携の話の中で、例えばわざわざ作らなくても既存の協議会等を活用すれば可能ではないかというお話でご紹介させていただきますと、本市には銚子資産活用協議会という所がございまして、そこに犬吠埼灯台を対象に仲田さんも入って頂き、地域資産の保存・活用するにはどうやって行こうと考え、パンフレットやリーフレットを作成しております。今回お持ちしたダークツーリズムもジオパーク推進協議会あるいはジオパーク市民の会という組織があり、お手元の資料のように作っております。ただ今日、最初の議論にありましたように、例えば稼げる自治体としてどうするか、やはり歴史や文化を学ぶ、こちらは防災に関するツアーですのもっと面白く魅力のあるようなものを提供できる仕組み、やはり銚子資産活用協議会でもジオパーク推進協議会でも商業関係者の係わりは弱いのですね。情報発信もグッズや体験ツアー等が出来るよう、見られるような情報サイトがあればもっと活用が広がっていくのかなと思いますので、先程鈴木さんが仰られたように、誰がポータルサイトを作成するのか、という所になってきます。そういった情報をこれからどう発信していくかについては我々も考えて行きたいですし、国や海上保安庁の皆様とも連携しながら進めて行きたいと思っています。

【仲田代表幹事】 地域活性化に資する灯台活用といった課題に関して、国が全国を俯瞰してされることと個別の灯台を対象にピンポイントでされることの二通りあると思います。全国の灯台を網羅するポータルサイトはもちろん有意義だと思いますが、あわせて、個別の灯台の価値や魅力度をアップするための、繰り返しになりますが犬吠埼であればレンガの二重壁構造の見える化だとか、霧笛を時々鳴らせるようにすることも是非検討して頂きたいと思っています。

【藤岡座長】 不動さんが何かちょっと話したそうですね。

【不動委員】 ポータルサイトを誰がやるのか問題の件につきまして、もし私がやっても良かったら私がやりたいという事をちょっと（会場笑）個人的にできる事ではないのでしたら、またちょっと方法を考えなければなりません。私がもしやるとしたら、グーグルカレンダーのようなものを活用して、各保安部の方がそこにアップしてくれれば、それを皆さんと共有できる。いちいち誰かが集積しそれを上げるとなると時間ロスが生まれるので、入れた瞬間にアップできるようにできるものがあれば良いのではないかと。また情報が更新されたら、ツイッターやメルマガで登録している人には情報が直ぐに行き、あるいはアプリで共有していたら自分のカレンダーを見てどこで何がというのが何時でも見られるというのが、できるのが良いなと思っています。以上です。

【藤岡座長】 有難うございます。議論の方は終わりですが、事務局から資料4の中間報告の骨子案のようなものについてご説明を頂いた方がよろしいでしょうか。

【海上交通企画室長】 本日は活発なご意見有難うございました。先程座長からもコメントがありましたが、今回の有識者懇談会の議論を踏まえまして、第三回有識者懇談会において、資料4を添付させて頂いておりますが、灯台の活用拡大に向けて取り組むべき方策につきまして「中間とりまとめ」という形で整理したいと考えております。次回、ご審議頂いた上でとりまとめでいきたいと考えております。

【藤岡座長】 これはただ単に報告という事でよろしいですね？

【海上交通企画室長】 実際には、本日の議論等も盛り込みながら、事務局で「中間とりまとめ」の案を作った上で、第3回の懇談会において、委員の方々のご意見も踏まえて、最終的にまとめて行きたいと考えております。

【藤岡座長】 有難うございました。それでは最後に何かご意見等ございましたら。

大丈夫でしょうか。それでは事務局の方に。皆様、本日は活発なご意見を頂きありがとうございました。

【海上交通企画室長】 改めまして、本日は活発なご議論有難うございました。追加のコメントやご質問等ありましたら、遠慮なく事務局までメール等で頂ければと思います。

ご参考までにご説明させて頂きませんが、資料5でアンケート調査に関して一枚添付しております。これにつきましては、灯台を訪れた人々にアンケート調査を事務局としてもやってみたいと考えており、次回、ご報告できるように進めたいと思います。

なお資料の中で参考資料というのがございますが、時間の関係で口頭説明は省略させて頂きませんが、内容と致しましては、魅力ある施設インフラの開放についての資料とコミッションという話もありましたが、灯台の映画等での活用について添付しております。

これに関してもご質問等ありましたら、事務局までお願いしたいと思います。本日の議事概要につきましては事務局より各委員等、皆様方に確認を取らせて

頂きたいと思いますので、よろしくお願い致します。

これを持ちまして第 2 回地域活性化に資する灯台活用に関する有識者懇談会を終了したいと思います。本日は有難うございました。